

古渡り峠

こわたりとうげ



佐藤 允



岡本 舞



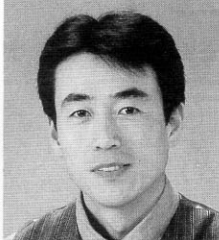
白石奈緒美



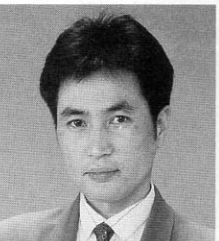
服部 博行



岡 夏海



小澤 俊明



増山 浩一



松村 曜生

「古渡り」とは外国から入ってきた品物を意味する長崎地方の言葉である。
○長崎街道は、小倉から長崎まで二十五宿、五十七里(228キロ)の街道である。長崎街道は、出島・オランダ商館長の江戸参府のルートとなり、鎖国の中でただひとつ外国へ開いた街道であった。長崎街道は、西洋の知識が江戸へ上り、日本の夜明けを求める人々が長崎へ下った「文明ロード」であった。

○「島原の乱」から「諫早一揆」までの人間群像。
○その峠は諫早より一里半西にあった。峠からは海と長崎街道が一望できる。この峠を土地の人は「古渡り峠」と崇め親しんだ。「古渡り峠」には、「龍神」を奉った祠があった。「龍神」とは雨と水を司る海神である。諫早の歴史は圧政と忍耐、干拓と水害の歴史である。

○この物語は、その長崎街道が一望できる「古渡り峠」を舞台にして寛延三年(1750)の「諫早一揆」を主軸に、長崎街道を往来した人と時代を描き、西海道が日本の歴史に果たした役割を再確認するものである。「諫早一揆」は、鍋島藩が「諫早領主茂行が佐賀藩主擁立騒動に関与した」として暫居と四千石の没収を命令したのがきっかけとなった騒動である。

○「殿様と藩を守れ」という前代未聞の百姓一揆。それが「諫早義挙」である。

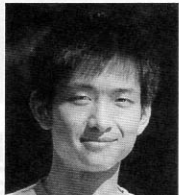
○「諫早一揆」は、武士を首謀者として、所領返還を本藩に強訴して農民も荷担し、十ヶ月間に及んだ単なる百姓一揆とは相違する特異な闘争であった。それは「人間が人間らしく生きる」ことへの強い抗議でもあった。この物語は、諫早の開拓工事(堤防築き、潟荷い)に命を掛けた山崎教清と妻トクの娘早苗と鍋島家重臣鍋島徹庵の息子蔵人の「家」と「家」との宿命の対決ゆえの悲恋と、徳川幕府の「非道」と若杉春后の説く「人道」との闘争そして、「島原の乱」の生き残りの血を受け継ぐエキゾチックな美貌の持ち主「峠の茶屋」の早乙女の悲運を描くことで長崎街道の人と歴史を余す所なく描くものである。

古渡り峠には茶屋があった。「峠の茶屋」の女主早乙女は「島原の乱」でたった一人生き残った山田右衛門作の血を受け継ぐ女性と噂されていた。確かに、早乙女は「島原の乱」や「佐倉惣五郎」や「赤穂四十七士討ち入り」に詳しい人であった。長崎街道を往来する人がもたらしてくれた知識である。「古渡り峠」は「峠の茶屋」の早乙女を語り部として進行する。

この物語は「諫早一揆」の勃発から鎮圧までを描くことで「島原の乱」に始まった徳川幕府への抗議や謀反の「一揆」や「乱」はなんであったのかを解明しつつ、人間が人間らしく生きる素晴らしさを訴える痛快娯楽人間活劇である。



松本 努樹



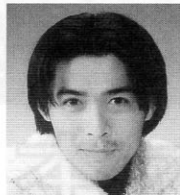
和田慎太郎



後東地高史



水上 武



服部 桂吾



中村 信夫

六本木俳優座劇場 〒106-0032 港区六本木4-9-2 TEL 03-3470-2880

俳優座劇場 15(水)16(木)17(金)18(土)19(日)

外苑東通り 東京三菱BK 六本木通り
地下鉄日比谷線六本木駅 スクエアビル アマンド

14:00
18:30

問合わせ・前売り 岡部企画 044-933-9754
チケットぴあ 03-5237-9999

料 金 一般:4,500円 [全席指定]
高校生以下:3,000円 税込